

A. 分娩の自己コントロール感

研究者, 出版年	デザイン	場所	研究の対象者	結果	効果	備考
Hodnett & Osborn, 1989	RCT	トロント (カナダ)	健康な初産婦。 ほとんどが白人 で教育もあり社 会的に恵まれ た層。夫の付き 添いもあること が多い。	ドゥーラありのグループ(49名)では、 ドゥーラなし(54名)に比べ、妊娠中 (38週)の期待感に差はなかったが、 出産後(産後 2~4 週)に、よりたくさ んコントロール感が増した。	あり $p < 0.04$	どちらのグループでも出産後に スコアが伸びた($p < 0.003$)が、ド ゥーラありのグループではその 伸びが著しかった。
Hofmeyr et al., 1991 Wolman et al., 1993	RCT	ヨハネスバー グ (南アフリカ)	健康な初産婦 とその新生児。 (貧困層)	分娩後 24 時間以内 ドゥーラあり: 92 名中 54 名(60%)が 陣痛にうまく対処できたと回答 ドゥーラなし: 96 名中 23 名(24%)が 陣痛にうまく対処できたと回答	あり $P < 0.001$	分娩がとても困難だったと回答 した女性がドゥーラ有のグルー プで有意に少かった($P =$ 0.002)。
Langer et al., 1998	RCT	メキシコシティ (メキシコ)	健康な初産婦 とその新生児	分娩直後 ドゥーラあり(357名): 低度 0.6% 中程度 26.9% 高度 72.5% ドゥーラなし(353名): 低度 1.1% 中程度 35.4% 高度 63.5%	あり $p < 0.05$	高度の自己コントロール感を得 た女性がドゥーラありのグルー プでより多かった。
Gordon et al., 1999	RCT	カリフォルニア (US)	夫や家族に付 き添われ、約半 数が白人、高 学歴の健康な 初産婦とその	産後 4-6 週間 ドゥーラありのグループ(149名)では ドゥーラなしのグループ(165名)に比 べ、「陣痛を上手に乗り越えた」と答 えた女性が有意に多かった(46.8%)	あり $p < 0.01$	出産はとても簡単だった、また はとても困難だったという回答 に差はなかった。

			新生児	vs. 28.3%)。		
Hodnett et al., 2002	RCT	計 13 の US と カナダの病院	75%が白人で社会的に恵まれた層。経産婦も含む。合併症のある産婦や双胎も含む。	ドゥーラありのグループ(2836名)とドゥーラなしのグループ(2765名)では統計的有意な差があったものの、実はスコアの差はわずか1点であった。コントロール間が低かった女性の数を比べると有意差なし(3.4% vs. 4.3%, $p>0.05$)。	なし	

B. 自尊心・自信

研究者, 出版年	デザイン	場所	研究の対象者	結果	効果	備考
Hofmeyr et al., 1991 Wolman et al., 1993	RCT	ヨハネスバーグ (南アフリカ)	健康な初産婦 とその新生児。 (貧困層)	[自尊心] 分娩後 24 時間以内の時点では、ドゥーラあり(91 名)とドゥーラなし(96 名)のグループで差は見られなかったが、6 週間目の時点では、ドゥーラありのグループでは自尊心が上昇し、なしのグループでは自尊心が低下し、有意な差が出た。	あり $p < 0.001$	分娩後 6 週間後に、母親として問題なくうまく対処出来ていると回答した女性がドゥーラありのグループで有意に多かった ($p < 0.001$)。 もともとの自尊心のレベル(気質)は両グループで差がなかった。
Langer et al., 1998	RCT	メキシコシティ (メキシコ)	健康な初産婦 とその新生児	[自尊心] 分娩直後 ドゥーラあり(336 名): 低度 25.3% 中程度 74.7% ドゥーラなし(316 名): 低度 25.3% 中程度 74.7%	なし $p > 0.05$	自尊心を高度と回答した女性は両グループで一人もいなかった。
Walton et al., 1998	RCT	カリフォルニア (US)	健康な初産婦 とその新生児	[自己像・自尊心] 産後 4 週目 ドゥーラあり(169 名): 54.6% ドゥーラなし(209 名): 44.4%	あり $p < 0.05$	学会発表の要旨のみで情報が少ない。
Gordon et al., 1999	RCT	カリフォルニア (US)	夫や家族に付き 添われ、約半数が白人、高 学歴の健康な 初産婦とその 新生児	産後 4-6 週間 ドゥーラありのグループ(149 名)では ドゥーラなしのグループ(165 名)に比 べ、女性であること(58.0% vs. 43.7%)、自分の身体についてポジテ ィブに感じる(58.0% vs. 41.0%)という	あり $p < 0.05$ $p < 0.01$	

				回答が有意に多かった。 自尊心(54.5% vs. 45.1%)、自分を良 い母親と感じる(49.6% vs. 46.5%)と いう回答は有意ではなかった。	あり?	
--	--	--	--	---	-----	--

C. 産褥うつ病

研究者, 出版年	デザイン	場所	研究の対象者	結果	効果	備考
Trotter et al., 1992	RCT	ヨハネスバーグ (南アフリカ)	健康な初産婦とその新生児。 (貧困層)	産後3か月目 ドゥーラあり(10名)のグループではドゥーラなし(19名)のグループよりも有意に産褥うつ病のスコアが低かった。	あり p<0.05	Hofmeyr et al., Wolman et al.らの実験研究の延長。サンプルサイズが小さい。 ドロップアウトした女性について考慮しても、やはり有意な差が出た。
Wolman et al., 1993	RCT	ヨハネスバーグ (南アフリカ)	健康な初産婦とその新生児。 (貧困層)	産後24時間以内には差は見られなかったが、分娩6週間後に、ドゥーラあり(74名)のグループとドゥーラなし(75名)のグループで有意な差が見られた。	あり P<0.001	さらに、産褥うつ病の程度を軽度・中程度・高度と分類すると、ドゥーラなしのグループでは中程度・高度が多く、ドゥーラなしのグループでは高度のうつ病はゼロだった。(P<0.0001)
Altfeld, 2002	比較グループなし	シカゴ (US)	10代、大半がヒスパニックまたはアフリカンアメリカンの女性とその新生児。 貧困層。	産後平均5か月の時点で、50.4%の女性がうつ病を示すスコアであった。一方、同様に若年、未婚、貧困層を対象とした他の研究データでは、53-67%の女性がうつ病を示すスコアであった。	あり?	この研究は比較グループがないため結論が難しいが、当研究者らは、もしドゥーラサポートがなかったらよりひどかったのでは、とドゥーラサポートの効果を示唆している。
Hodnett et al., 2002	RCT	計13のUSとカナダの病院	75%が白人で社会的に恵まれた層。経産婦も含む。合併症のある産婦や双胎も含む。	産後6週目 ドゥーラありのグループ(2836名)とドゥーラなしのグループ(2765名)で、うつ病を示すスコアをもつ女性の率に差はなかった(8.7% vs. 10.1%, p>0.05)。	なし	

母子関係、児への愛着

研究者, 出版年	デザイン	場所	研究の対象者	結果	効果	備考
Sosa et al., 1980	RCT	グアテマラ (中米)	健康な初産婦 とその新生児。 (貧困層)	ドゥーラありのグループ(20名)ではドゥーラなしのグループ(20名)に比べて、分娩直後1時間に母親がより長い間覚醒し、多く児を撫で、児に話しかけ、笑いかけた。	あり p<0.002 p<0.001 p<0.002 p<0.009	児を見ている時間、触っている時間は両グループで有意な差はなかった。
Landry et al., 1998	RCT	?	健康な初産婦 とその新生児	産後6-9週目 ドゥーラありのグループ(33名)では、5つの項目のうち4つの項目でドゥーラなし(71名)のグループよりも有意に高い相互作用が見られた。平均のスコアも有意に高かった。	あり p<0.05 p<0.001	学会発表の要旨のみで情報が少ない。 家庭訪問し、母児の身体的接触の程度、児をみつめる頻度、愛情を示す行動について観察した。
ManningOrenstein, 1998	無作為化なし の2グループ 比較	北カリフォルニア (US)	大半が白人、ミドルクラスの初産婦とその新生児	ドゥーラサポートを受けたグループ(14名)ではラマーズ法のグループ(19名)に比べて児を拒絶することがなく、困惑していないことが分かった。	あり p<0.05	ラマーズ法とドゥーラサポートを比較。産前産後の変化を調べた。 有意ではないが、ドゥーラサポートのグループでは育児不安のレベルがより低かった。 サンプルサイズやや小さめ。
Altfeld, 2002	比較グループ なし	シカゴ (US)	10代、大半がヒスパニックまたはアフリカンアメリカンの女性とその新生児。	ドゥーラサポートをうけたグループでは、同じ尺度を使った他の研究の平均値に比べ、統計的に有意ではないが低めのスコアが得られた。	なし?	一般に母親の年齢が高くなるほど母子相互作用のスコアが高くなることが分かっている。この尺度を用いた他の研究では対象者の年齢が高いため、10代限定の当研究との比較は難しい。

